

## 2008・広大マスタースズ市民講座報告

### 子と親のための「野っ原探検講座」第4回 「東広島の大い探検」

沖村 雄二

11月9日（日）13~16時：西条龍王山“憩いの森公園”

一般参加者24名：指導補助 森山宏一さん（元崇徳高等学校教諭・地学）

学生ボランティア：高木さん・秋月さん・福田さん

東広島市に発達する岩石や、シルクロード地域にあった“古地中海”（古～中世代に存在したテチス海）の古生物（アンモナイト・サンゴ・二枚貝・腕足類など）を展示するために、安藤先生をはじめスタッフ一同は、“憩いの森公園”セミナーハウスに、1時間前に集合して打合せ―展示作業を行い、13時開講の雰囲気盛り上げることができました。

参加者が揃って定刻に開講。探検するコースの地図を配り、龍王山に分布する岩石（花崗岩；流紋岩はない）と鉱物・遺跡のあらましについて説明した後、野っ原探検に出かけました。“日だまりの庭”、龍王山の南斜面に刻まれた半尾川支流の土手では、龍王山には分布しない庭石様の十数個の結晶片岩（伊予の青石や赤石）を観察、ヤマモモの老木、半尾川の親柱、そして花崗岩でつくられた古墳を見学（写真1）、そして、かつての市町村には必ずといってよいほどあった雨乞いの山＝龍（竜）王山を遠望しました。



写真1 花崗岩でつくられた古墳を見学



写真2 シンボル庭園の急坂を上って展望台へ

シンボル庭園の急坂を上って展望台へ（写真2）。ここでは、半尾川の出口が狭くて西条駅付近に扇状地が形成されて、お酒の醸造に使われる地下水が貯められている地層のあることや、龍王山の名水に疑問があること、そして展望台のある広い平坦地形が地滑りによって形成され、半尾川の貯水層として役立っていることなどを話しました。この平坦地形の南斜面の見晴らしのいいところにつくられた大きな小山第1号古墳では、多くの包有物（捕獲岩）を含む花崗岩にこだわった石棺の築造に驚きの声が出ていました（写真3）。ちなみに、この岩石の分布は、半尾川沿いに厚さ数メートルの岩脈として発達しているにすぎません。



写真3 石材にこだわった小山第1号古墳



写真4 南に傾斜する川床の平坦な節理面を見学

地滑り堆積物の前面の急坂を下って半尾川河床へ。花崗岩に発達する方状節理に起因する小さな滝の2態と、僅かに南に傾斜する川床の平坦な節理面に沿って、兩岸の上部が川の中心に向けて滑っている様子を見学（写真4）。キツネやイタチの糞をみながらキャンプサイトを南下して断層鏡肌と擦痕（触ってみて、手前の岩石が南へずれたことを体験、写真5）を確かめて野っ原探検を終了（約1時間半）し、セミナーハウスへ。



写真5 断層鏡肌と擦痕を観察

見学した地質や遺跡について写真や図をつかった復習、そして100点余りの化石に触って昔の生物に思いを重ねながらクイズとアンケートに答え（写真6）、くじ引きでおみやげの化石を手にした全員が一喜一憂。ご父兄の皆さんからも、よく訪れる龍王山の自然の不思議についていろいろ勉強することができたと、感謝のお言葉をいただきました。







写真6 (4点) 100点余りの化石に触ってクイズとアンケートに回答